

神戸薬科大学 図書館ニュース

No.52
2021.4

Contents

- ① 巻頭
ステイ・ホーム?本でも読んでみますか・・・
特別教授 畑 公也
- ③ ブックガイド(専門分野別)
治療薬がないがんを薬で治したい、
と思ったらさてどうするか
薬化学研究室 教授 奥田 健介
- ⑤ 「SciFinder[®]」で研究をワンランクアップ
化学情報協会 千葉 康広
- ⑥ 薬剤師のためのDI資料35
元 薬学臨床教育・研究センター 臨床特命教授 渡 雅克
- ⑦ 受入図書から
- ⑨ 図書館の思い出「読みたい本に出会える場所」
薬用植物園 講師 西山 由美
- ⑩ コロナ禍のなかの図書館
- ⑪ 2021年度学術雑誌・データベースについて
お知らせ

3F 書庫 製本された学術雑誌

図書館には、色とりどりの鮮やかな背表紙が整然と並ぶ場所があります。保管のために合冊製本された学術雑誌です。

世界中の研究成果(論文)が掲載される雑誌は、それを調査することで新たな研究を生みだしてきました。本学でも設立から長きにわたり収集し、古くは1860年代のものがあります。

現在では大部分が電子化しましたが、今でも学内外問わず利用されています。未来を見据えて、失うことのできない先人の英知を大切に保存しています。

巻頭

ステイ・ホーム？ 本でも読んでみますか・・・

特別教授 畑 公也

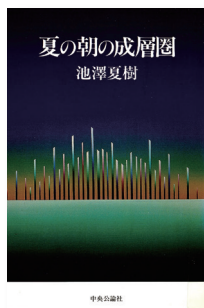


コロナ禍のなかで、昨年から2度にわたってステイ・ホームを余儀なくされました。刻々と報道されるとんでもない現実を前に、途方に暮れて立ち尽くす日々。とりあえず、そんな現実から目を逸らせるために、TVのお笑い番組で頭を空にする、ゲームにのめり込む、といった手もありますが、もちろん読書という手段もありますよね。本というのは、どんな類のものであれ、それぞれがひとつの世界を開いてくれます。本は「幸福な避難場所」といった人がありますが（確か江國香織）、立ち止まって、さてどちらの方向へ進もうかと迷う人に、あわよくば何かヒントを与えてくれるということもあります。ここでは3冊の本を取り上げて、本の世界に迷い込む楽しみについて考えてみたいと思います。ただし、それらは私が最近たまたま読んだというだけで、とりわけご利益確かなお薦め本というわけでは決してありません、念のため。

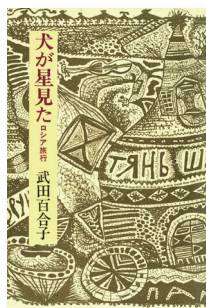
まず1冊目は図書館の棚からで見つけた小説、池澤夏樹『夏の朝の成層圏』。主人公は地方新聞の記者で、取材のためにマグロ漁船に乗り込みますが、夜中に波の写真を撮ろうとして、後部甲板から海のなかへと攫われてしまいます。目撃者もなく、救助の望みもないまま一昼夜半海上を漂流した後、南海の無人島にたどり着き、ロビン

ソン・クルーソーばりの冒険が始まります。文明から逸脱し、バナナや椰子の実で命を繋ぐ原始生活ですが、主人公はそこに「まるで地上を離れて高い空の上で、成層圏で暮らすよう」な一種のさわやかさを感じています。つまり、現実のしがらみを離れた空白期（休暇）であり、後に文明社会への復帰が可能になってもそれを急ごうとはしませんし、また復帰したとしても、いわば再生を果たした主人公にとって、現実世界は様相を一変し、新しい世界となるはずです。このようなサバイバルと再生の物語は、コロナ禍の現実打開を望む読者の共感を呼びやすいのでは、とふと考えました。因みに『ロビンソン・クルーソー』の著者デフォーが『ペストの記憶』を書き、パンデミック克服を希求した人でもあったことを思い出します。

2冊目は旅行記を。こんなご時世ですから海外旅行もままならず、せめて本のなかで旅ができれば、というわけです。（図書館にもそんなコーナーがありますよ。）選んだのは武田百合子『犬が星見た ロシア旅行』。夫の作家武田泰淳とその友人竹内好と1か月かけて旧ソ連を巡るツアーに参加、「つれていってやるんだからな。日記をつけるんだぞ」と言われて、「日頃、タダでご飯を食べているばかりの私は恐縮して」旅の記録をつける。「百合子は犬



『夏の朝の成層圏』

池澤夏樹 著
中央公論社

『犬が星見たロシア旅行』

武田百合子 著
中央公論社

『豊かさとは何か』

暉峻淑子 著
岩波書店

だよ。どこへ行っても臆面もなく、ワン、なんていってるんだ。何にもわからんくせにな」と、犬扱いする泰淳氏の言葉を受けてつけられたタイトル。文化的背景や歴史にとらわれず、犬が星を見るようにピュアな眼差しにとらえられ、澆漓とした文体で記述されるロシアの人々の暮らしは読者の心を掴む。「てろてろと光っている」武人像や女神像は「イヤらしいねえ。このおサムライもイヤだけど、あの女神様はもっとイヤらしいねえ。長崎の平和記念像や大船や高崎の観音様みたい」と切り捨てる一方で、プハラ近郊の砂漠遊牧民の包(パオ)で出会った少女たちについては「平らな顔に、つり気味の皮まぶたの黒い眼。緑色の鼻汁。私は子供のとき、こんなだった」と書き、旅の終わりでも「感動というのは、中央アジアの町へ着いたときにした。前世というものがあるなら、そのとき、ここで暮らしていたのではないかという気がしたのだから」と振り返っている。天衣無縫でありながら、かつ生活者の「いま、ここ感」に支えられた視線がとらえる風景は魅力的です。武田百合子ファンの私は今回で通読3回目、クセになる本。

3冊目は暉峻淑子『豊かさとは何か』。30年前に出た有名本、今さらという感もありますが、自宅の本棚の奥にあ

るのを見つけ、つい再読してしまった1冊。バブル真っ盛り、日本経済の絶頂期に書かれ、今では中国にもすっかり差をつけられ、状況が一変しているにもかかわらず、根本的なところは全く何も変わっていない、おっしやる通り、と言わなければならないのは日本国民として情けない。

経済成長最優先でなりふり構わず「モノ・カネの豊かさ」ばかりを追い求めたバブル期、長時間労働による過労死、「ウサギ小屋」と笑われた住宅事情、老後不安、ますます悪化する環境問題、青少年の健全な育成を阻害する受験戦争などなど、真の「豊かさ」とは程遠い実態の精緻な分析から当然導き出されるのは、人間らしい生活を保障するための政策の方向転換、例えば労働時間短縮と余暇の確保、平均的サラリーマンでも取得できる良質なマイホーム、介護制度・社会保障・福祉の充実、脱原子力発電を含む環境の保護・改善、自由な発想をはぐくむ教育制度などの必要性でした。ところがそれらは今に至るまで実現されていません。そしてこのコロナ禍。この国の「貧しさ」が一層顕わになっている今こそ、改めて真剣に考えるべきさまざまな問題について重要な示唆を与えてくれる良書です。なお、関連書籍として、ミハエル・エンデ『モモ』とシモーヌ・ヴェーユ『根を持つこと』が挙げられています。

ブックガイド(専門分野別)

治療薬がないがんを薬で治したい、 と思ったらさてどうするか

薬化学研究室 教授 奥田 健介



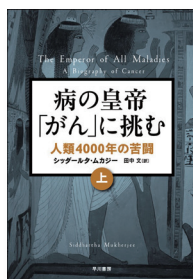
日本人の2人に1人が生涯でがんになります。(国立がん研究センターがん情報サービス「最新がん統計」より) 学生の皆さんの身近にもきっとそういう方がいらっしゃると思いますが、私は高校生の時に祖父を肺がんで亡くして以降、身内や知人・友人でがん罹患する、あるいは亡くなる状況にしばしば遭遇してきました。がんの治療法は手術、化学療法、放射線療法、(近年では免疫療法も)と分類されますが、私たちは薬学部人間ですから今までにない薬効の「くすり」を作って、これまで治らなかったがんを治すことができるようになったら素晴らしいですよ。非常に単純な言い方ですが、薬学部で薬を作れなくてどこで作れるようになるの?と私は思っています。そのために薬学部生の皆さんに現時点で足掛かりとなるような参考書を以下に紹介します。これらの書籍を通して「がん」の性質を知り、一般的な創薬について学び、「がん」の今後の創薬展開を考えることができます。

病の皇帝「がん」に挑む：人類4000年の苦闘 上・下 (シッダールタ ムカジー著、田中文訳) 早川書房

原題は“The Emperor of All Maladies”(全ての病の皇帝)とあり、タイトル通りのノンフィクションですが、ライターが執筆したものではなく現役の腫瘍内科医・研究者が執筆した書籍です。一般読者に向けて書くことが仕事のライターではないにも関わらず、その圧倒的な筆力(上手に翻訳もされている)から、非常に読みやすいものでした。原著は2010年に出版されており、「がん」に関する最新の知見は盛り込まれてはいませんが、およそ4,000年にわたって繰り返されてきた「がん」とその治療をめぐる歴史について(壮絶な失敗の繰り返しの歴史でもあります)、薬学部の学生には興味深い内容だと思います。

ダンラップ・ヒューリン創薬化学 (長野哲雄監訳) 東京化学同人

創薬において、抗体医薬、遺伝子治療、細胞治療などの新しいモダリティは存在感を増しつつありますが、コスト面からも作用機構の面からも医薬品の中心は(少なくとも当分の間は)低分子であり続けるでしょう。「創薬化学」と題する書籍は近年多く出版されていますが、低分子医薬の基礎から開発までの創薬化学に関する内容を網羅している書籍としては本書が一番のおすすめです。本書は三部構成で、「医薬品の探索と創製」、「医薬品の標的分子」、「治療領域別の医薬品」からなっています。「医薬品の探索と創製」では、創薬の過程(スクリーニングからヒット化合物を見出し、リード化合物へと展開、さらに体内動態などを踏まえた構造最適化をおこなって開発候補化合物を得るまで)を概観します。「医薬品の標的分子」では、受容体、イオンチャネル、トランスポーター、酵素、タンパク質-タンパク質相互作用、核酸といった標的分子ごとに整理された薬物の作用機構を学ぶことができます。最後の「治療領域別の医薬品」には「抗がん薬」の章があり、古典的な遺伝子毒として作用する薬から分子標的薬まで実際の医薬品の開発にあたってどのように基礎的な生物学・化学的な知見が生かされているかが分かります。



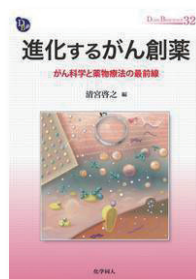
『病の皇帝「がん」に挑む：人類4000年の苦闘』上・下

シッダールタ・ムカジー 著 / 田中文 訳 / 早川書房



『ダンラップ・ヒューリン創薬化学』

N.K. Dunlap, D.M. Huryl 著 / 長野哲雄 監訳 / 東京化学同人



『進化するがん創薬：がん科学と薬物療法の最前線』

清宮啓之 編 / 化学同人

進化するがん創薬-がん科学と薬物療法の最前線- (清宮啓之編) 化学同人

先に触れたムカジーさんの本で一般的ながんに対する知識は十分身につきます。さらに本書を紐解くことにより、現在のがん生物学についてがん創薬の基本となるコンセプトを理解し(Part I)、その基礎となる先端技術を学んだ(Part II)うえで、現在のがん治療薬の特徴や分子標的薬の現状と展望(Part IIIおよびIV)を確認しましょう。Part Vでは、今後注目すべきがん治療標的として、がんの浸潤や転移、腫瘍内微小環境、がん幹細胞、がん特異的代謝経路が挙げられています。これらの治療標的は、いわゆる既存の「がんの分子標的」とは異なり、腫瘍の種類によらない固形がんの普遍的な標的とも考えられており、現在、国内外で活発に研究がおこなわれています。

以上、がん創薬の足掛かりとなる書籍を3冊紹介しました。薬化学研究室ではがんの微小環境やがん特異的代謝を標的とした低分子創薬化学研究を行っておりますので、興味がある方はぜひ見学においでください。研究会HPもぜひご覧になって下さい。

SciFinderリニューアルによせて

米国化学会が化学とその関連分野の抄録誌Chemical Abstractsを発売したのは1907年のことです。

長く紙のページを捲って目的の情報を探するという利用方法でしたが、コンピュータの発達によりCD-ROM版が出現、1995年にはオンライン検索ができるSciFinderが誕生しました。

本学でも1990年代にCD-ROM版を、2002年にはSciFinder Scholar(SciFinderの教育機関版)を導入しています。その時々でインストール型、ユーザー数制限などの変化がありましたが、最も利用の多いデータベースでもあり、常に最新の化学情報を入手できるよう環境整備に努めてきました。

このほど大幅に刷新されたSciFinder[®]へ移行するにあたり、化学情報協会の千葉康広氏より新たな機能や特徴をご寄稿いただきました。ご利用にあたってぜひお役立てください。

「SciFinder[®]」で研究をワンランクアップ

化学情報協会 千葉 康広

SciFinder[®] (サイファインダー・エヌ) は、長年にわたり高品質な科学技術関連情報を提供してきたCASが新たに提供するSciFinderファミリーの新製品です。操作性を向上させ、情報検索に要する時間短縮を実現するSciFinder[®]は、一般的なインターネット検索の要領で薬学を含む物質科学関連分野の文献・物質・反応情報を迅速に検索できるツールとして、日本のみならず海外の大学、企業、研究機関で利用が進んでいます。以下にSciFinder[®]の特長をいくつかご紹介します。

1. さらに使いやすいインターフェース

従来の SciFinder に比べてよりわかりやすいインターフェースを採用し、検索に要する時間の短縮を実現しています。結果の絞り込みは、チェックボックス形式にて直感的に行うことができます。また、検索履歴は自動的に SciFinder[®]のサーバーに保存されるため、履歴を用いた再検索が可能となりました。

2. 欲しい情報の優先表示

CAS 独自のアルゴリズムにより回答の適合性を判断し、関連性の高い順に文献を表示するため、欲しい情報をすぐに見つけることができます。また、化学および周辺分野の文献情報 (CAplus) と生物医薬分野の文献情報 (MEDLINE) の両データベースが統合されたため、重複文献除去をする必要がなくなりました。

3. 収録情報の拡大と充実した検索支援機能

核酸・タンパク質の配列検索機能、化学物質の逆合成解析を行う Retrosynthesis Planner、特許明細書へのスムーズなアクセスを可能にした PatentPakなど新たな機能が搭載されています。また、一部の文献情報には製剤・配合情報が追加されており、これまでの SciFinder では得られなかった情報が得られます。

The screenshot displays the Biosequences search results page. On the left, there are search filters for 'BLAST Search Criteria' (Sequence Type: Nucleotide, Search Method: Nucleotide, BLAST Algorithm: BLASTn, Sequence Identity: 80%, Query Coverage: 90%, E-Value: 10, Match with Gaps: No, Gap Costs: Existence 5 Extension 2, Word Size: 11) and 'Bioscope Analysis' options. The main area shows a sequence alignment between a query and a subject, with a 'Sequence Identity: 100%' indicator. Below the alignment, there is a table of search results with columns for 'Q' (Query) and 'S' (Subject), showing sequence identity percentages and E-values.

今後も皆様の研究活動によりお役に立つよう、様々な機能強化を予定しています。

さらに便利になる SciFinder[®]をぜひご活用ください。

薬剤師のためのDI資料 35

『腎機能別薬剤投与量POCKETBOOK 第3版』

日本腎臓病薬物療法学会 腎機能別薬剤投与方法一覧作成委員会 編 じほう2020

腎機能低下患者や透析患者への薬物治療では、用法・用量の調節を考慮しなければならない薬剤や禁忌薬剤が多数存在する。これらの薬剤は中毒性副作用や薬剤性腎機能障害を防止するため適切な投与設計が求められる。日本腎臓病薬物療法学会では腎機能別の薬物至適用量が一目で分かるように一覧表を作成した。本書はこれらを基に作成され、日常診療で汎用されている薬剤を薬効別に分類掲載されている。

本書は薬剤の腎機能別推奨投与量をGFRまたはCCrを5mL/min刻みのカラムで掲載し、「減量が必要なのか」「至適用量はどのくらいか」が腎機能別に用法・用量が表形式に一覧表でわかるように作成されているのが特徴である。表中には腎機能低下患者に対する薬物投与に関し重要度区分が薬剤毎に付けられ一見して重要度が直感で分かる。また、通常の血液透析によって除去されるもの、除去されないものの区分も透析性有・無で、薬剤性腎障害の原因薬物となるものには腎障害の表記を、TDM対象薬にはTDMの印がつけられているなど、記載事項が簡潔で一見して分かるように工夫されている。さらに、当該薬剤の減量法についても簡潔に表中に記載されていて実用的である。

初版は2016年に発行されたが、第3版はデータの更新と共に掲載医薬品が2,193と前版よりも大幅に情報量が増加した。また、判型がポケットサイズの小型版で病棟等に携帯でき、医療現場で有用な情報源として活用が期待できる。



元 薬学臨床教育・研究センター 臨床特命教授 渡 雅克



図書館スタッフの
こぼれ話

図書館と「色」

本誌表紙にカラフルな製本雑誌の並ぶ写真を掲載しました。明るいオレンジやブルーなどの表紙の色は、隣り合うタイトルが似たような色にならないように気を付けながら選んでいます。一面同じ色が続くと、その研究の歴史と奥深さを感じてとても壮観です。

一方図書は工夫を凝らした芸術的で美しい装丁のものも少なくありません。一冊一冊は鮮やかな絵画のようで、ぎっしりとつまった棚の様子はパッチワークやキルトにも見えます。表紙を捨てていた時代もありましたが、現在は残っています。表紙の色が本を探すときの目印になることもあります。

図書館に入ると、落ち着いたグリーンの床が目に入りま

す。閲覧机や自習机の明るい木目、ベージュやブラウンのイスと合わせて、温かく居心地の良い空間になっています。ゆっくりと読書を楽しむソファは床

と補色のワインレッドを選んでいました。「図書館の赤いソファ」として情景が思い浮かぶくらい印象的でしょうか。

図書館は思いのほか色の洪水にあふれています。

(図書館 Y)



受入図書から



ポール・J・シルヴィア 著
高橋さきの 訳 講談社
できる研究者の論文生産術
どうすれば「たくさん」書けるのか

論文作成の本はいっぱい読んだけど、なかなかうまくいかないってことはないですか。雑用に追われ、なんとなく先送り、論文は、時間を十分とれる時に、一気に書こうと思ってしまいがちです。この本は、心理学者が執筆しており、“やる気スイッチをON”してくれる本です。論文に限らず、本当にやらなくてはいけないことを先送りしている方にお勧めしたい一冊です。是非ご一読を！人生が変わるかもしれません。

(サンライズ)

森見登美彦 著 小学館
夜行

本作は「夜は短し歩けよ乙女」などで有名な著者が作家デビュー10周年を記念して執筆した小説です。10年前に失踪した女性「長谷川さん」と銅版画「夜行」を軸に怪談めいた話で構成されています。物語の起点となる京都や登場人物が訪れた旅先の情景が細かく描かれており、ホラーな雰囲気がありながらも実際に訪れてみたいくなるような気持ちにさせてくれます。夜の独特な雰囲気を味わいたい方におすすめの一冊です。

(薬品化学研究室 安井基博)



鎌田浩毅 著 中公新書 中央公論新社
理科系の読書術
インプットからアウトプットまでの28のヒント

「本を読むのは苦行」ということを理系出身の著者が指導にあたられる大学の学生から聞いて執筆されました。読書に苦手意識をもつ人は、まずは3章まで読んでみてください。本に触れる秘訣、本の読み方、本の内容把握の仕方などいろいろ紹介されています。一方、本を読むことに抵抗がない人は4章から読んでみてください。理学的思考で本を読むという新発見があるかもしれません。さらに時間や物事の整理につながるかもしれません。

(k)

化学・医学・薬学分野より一部抜粋

書名	著(編)者名	出版社
若い読者のための科学史	ウィリアム・F・バイナム	すばる舎
CRC handbook of chemistry and physics 101st ed.	John R. Rumble 他	CRC Press
コンパクト化合物命名法入門	田島慶三	東京化学同人
よくわかる薬学分析化学 第2版	二村典行 他	廣川書店
医学・薬学系のための生物統計学入門 第4版	今野秀二, 味村良雄	ムイスリ出版
分子細胞生物学 第8版	H. Lodish 他	東京化学同人
ゲノム革命がはじまる：DNA全解析とクリスパーの衝撃	小林雅一	集英社
地域包括ケアシステムにおける漢方	加藤士郎	ライフ・サイエンス
標準生理学 第9版	河合康明 他	医学書院
Physiology 2nd ed. (Lippincott's illustrated reviews)	Robin R 他	Wolters Kluwer
ニューダイレクション薬学生化学	北川裕之, 山田修平	京都廣川書店
生体分子反応を制御する (CSJ Current Review 36)	日本化学会	化学同人
Rang and Dale's pharmacology 9th ed.	James M. Ritter 他	Elsevier
基礎からわかる服薬指導 第3版	浜田康次 他	ナツメ社
コンパス薬物治療学	原明義, 小山進	南江堂
薬剤師レジデントマニュアル 第2版	橋田亨, 西岡弘晶	医学書院
ゼロから学ぶ薬学管理：フォローアップと薬歴記載の必修スキル	早川達 他	日経BP
オピオイド：病院から在宅における緩和医療のためのQ&A	宮本謙一	フジメディカル出版
公衆衛生がみえる2020-2021 第4版	医療情報科学研究所	メディックメディア
薬がみえる 4	医療情報科学研究所	メディックメディア

凧良ゆう 著 東京創元社
流浪の月

事実は必ずしも真実と同じではない。そのことに改めて気付いた作品です。15年前の誘拐事件。自分は「ハズレ」だと絶望する大学生・文が、居場所をなくした少女・更紗を自宅に誘った。被害者、加害者として常に周囲から干渉される息苦しさの中で、二人は再会する。世間が納得するような関係性でなくとも、二人が穏やかに生きられる世界がどこかにあって欲しい。2020年本屋大賞受賞作。映画化を望む声も多く、配役の妄想も一興です。

(T.H)



チャールズ・M. シュルツ 著
谷川俊太郎 訳 河出書房新社
完全版 ピーナッツ全集
全25巻+別巻

小さい頃、家族が購読していた新聞で「スヌーピーの漫画」の連載が始まった。最初はアメリカ的なユーモア、哀愁などが子供の私には難しかったけれど、一度ツボがわかると大好きに。チャーリー・ブラウンを筆頭に、子供達は人生に悩み、恋し、時には意地悪しつつHAHAHAと愉快地に笑いあう。谷川俊太郎の名訳を味わううち、きっとあなたに響く登場人物が見つかるはず。ちなみに私は安心毛布を引きずる哲学者、ライナスがお気に入りだ。(S.N.)

森見登美彦 著 朝日新聞出版
聖なる怠け者の冒険

筋金入りの怠け者である主人公と、どこまでも自分を律し、自らを追い込む正義の味方。両極端の二人を軸に、個性あふれる登場人物たちが物語を盛り上げる、森見ワールド全開の冒険ファンタジー。京都、祇園祭の宵山を舞台に、奇想天外で不思議な世界が繰り広げられます。長い長い一日の終わりに一体何が見つかるのでしょうか。(Rin)



書名

著(編)者名

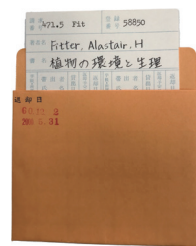
出版社

もっとよくわかる!循環薬学と精密医療(実験医学別冊)	YIBC 他	羊土社
肺癌診療ガイドライン 2019年版	日本肺癌学会	金原出版
臨床腫瘍薬学	日本臨床腫瘍薬学会	じほう
標準皮膚科学 第11版	照井正 他	医学書院
妊娠・授乳と薬のガイドブック:よくある不安や疑問に応える	愛知県薬剤師会	じほう
コ・メディカルのための医事法学概論 第2版	野崎和義	ミネルヴァ書房
薬学生のための臨床実習	日本病院薬剤師会	薬事日報社
OTC医薬品の比較と使い分け	児島悠史	羊土社
ダンラップ・ヒューリン創薬化学	N.K.Dunlap 他	東京化学同人
くすりに携わるなら知っておきたい!医薬品の化学	高橋秀依, 夏苺英昭	じほう
【電子ブック】医療情報を見る、医療情報から見る	青島周一	金芳堂
【電子ブック】新組織学 第7版(Qシリーズ)	野上晴雄, 藤原研	日本医事新報社
【電子ブック】FLASH薬理学	丸山敬	羊土社
【電子ブック】臨床薬物動態学 第4版	緒方宏泰 他	丸善出版
【電子ブック】がん生物学イラストレイテッド 第2版	渋谷正史, 湯浅保仁	羊土社
【電子ブック】休み時間の免疫学 第3版	齋藤紀先	講談社
【電子ブック】禁煙学 改訂4版	日本禁煙学会	南山堂
【電子ブック】衛生薬学:健康と環境 第6版	永沼章 他	丸善出版
【電子ブック・動画】薬の基礎知識		医学映像教育センター
【DVD】人体:神秘の巨大ネットワーク		NHKエンタープライズ

読みたい本に出会える場所 図書館の思い出



大学に入学した時から、図書館は身近な存在だった。私が学生の頃は、スマホで時間を潰すなどということはずいぶん、必ず1冊以上の本がカバンに入っていた。まだ学生で、本にお金を多く使うことができなかったが、図書館はただで本が読めて借りられるありがたい場所だった。この頃は、本の裏表紙内側に貸出カードの入ったポケットが



ブックポケット

あり、借りる時はそこに返却日のハンコを押してもらおう。今は、バーコードを機械が読んで、一瞬で貸出作業が終わるが、昔は職員の方に1冊ずつハンコを押してもらっていたのが懐かしい。

大学教員になってからは、研究に必要な文献を探すためによく図書館に行った。今のようにパソコンで検索し、すぐに印刷して欲しい文献を手に入れることができず、検索だけでも1日（もしくはそれ以上）仕事であった。「今日は図書館の日」と決めて、過ごしたこともある。しかし、疲れてくると、息抜きという理由を作って、好きなジャンルの本棚に行き面白い本がないか探していた。学生の頃はSFやエッセイをよく読んでいたが、書庫をぶらぶらしていると興味深い背表紙のタイトルが目に入ってくる。手に取って読んでみると「こんな本があったのか!」と、新たな本に出会えて感激

することも度々あった。こうして書庫をぶらぶらしたおかげで、今ではいろいろなジャンルの本を読むようになった。

図書館は、私にとって大のお気に入りの場所であるが、その一番の理由は蔵書数が多いことである。ちょっと足を踏み入れると、読みたい本がたくさんあって、なかなか図書館を出ることができない。「すぐ帰ってくる」と言って図書館に行き、1時間以上帰らずにゼミ生を困らせてしまったこともあった。図書館に行かなくても文献検索ができるようになり、ついでに書庫をぶらぶらする機会が少なくなってしまうが、今は、植物関連の本を探しに図書館に行っている。この分野は、古い本の中に意外なお宝(のような本)があったりして、やはり一度入るとなかなか出られない場所である。

図書館の移転が決まり、今の図書館がなくなる寂しさはあるが、これから教育や研究により役立つ機能を備えた新たな図書館の姿も楽しみである。ただ、私にとっては今後も行けば読みたい本に出会えるそんな場所であって欲しい。

薬用植物園

講師 西山由美



1967年に現在の1号館に図書館が移転してから50年以上が経過しました。1号館の設備老朽化に伴い、本学のキャンパスプランでは図書館の移転も計画されています。そこで、引き続きこの1号館の図書館の記憶を記録として残すべく、当時の思い出を語っていただきました。

コロナ禍のなかの図書館

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、図書館は大学の方針に合わせ、感染防止の対応を徹底しつつ開館を続けてきました。ここではその取り組みについてご紹介します。

開館状況の変化



*学外利用者の利用は2020年3月以降停止中

図書館の活動

新入生に向けた情報の発信

感染拡大により新入生ガイダンスが中止となったことから「新入生向け図書館ガイド」をPDFで作成。その他「KPU電子図書館」の利用案内チラシを送付するなど、制限下でも可能な限りの情報発信をおこないました。

学外からでも利用可能なデータベースの情報等を発信

一部のデータベースがサービス提供元の支援により自宅など学外からでもアクセス可能となったことから、これらの情報を一覧にしてHPに掲載、随時更新をおこないました。

電子ブックの充実

自宅など、学外からも利用可能な電子ブックの充実を図りました。

- Maruzen eBook Library 164タイトル (2021年1月時点)
- KPU電子図書館 393タイトル (2021年1月時点)

文献検索の動画を作成(授業用)

これまで対面でおこなっていた授業内での文献検索ガイダンスの内容を動画撮影し、Eラーニングシステムで視聴できるようにしました。

感染防止対策

- 常時窓を開け換気
- 座席を減少させ十分な距離を確保



- 図書館入口に消毒液を設置



- カウンターに飛沫防止用シートを設置



- 8/6～入館手続き制の開始



- 座席・PC等の利用終了後には洗剤・アルコールで拭き取り
- 返却図書は24時間経過後に棚に戻す

2021年度学術雑誌・データベースについて

●冊子体から電子版へ媒体変更

1. JAMA (The Journal of the American Medical Association)
2. BMJ (British Medical Journal)

●契約中止

電子ジャーナル(アグリゲータ)

1. ProQuest Health and Medical Collection データベース
1. JDream III
2. Martindale

●電子ジャーナルコンソーシアム参加

1. American Chemical Society (継続)
2. Oxford University Press (継続)
3. Rockefeller University Press (継続)
4. Royal Society of Chemistry (継続)
5. Science Online (継続)
6. ScienceDirect (継続)
7. Springer Nature (継続)
8. Thieme (継続)
9. Wiley (継続)

*各コンソーシアムによって、年毎に利用できるタイトルが変更されることがあります。

お知らせ

- No.48より連載記事「薬剤師のためのDI資料」にご寄稿いただいた渡雅克先生は、ご退職のため執筆は今号までとなります。長期にわたり本誌作成にご協力いただきました渡先生に厚く御礼申し上げます。
- 2020年11月より、SciFinder®(サイファインダー・エヌ)が利用できるようになりました。(P.5に記事あり)従来版のSciFinderはサービスが続く範囲で併用できます。
- 近年、急速に学術雑誌のオープンアクセス化が進んでいます。以下の購読電子ジャーナル2誌は、2021年よりオープンアクセスとなったため購読を中止しました。
 - ・Journal of Biological Chemistry
 - ・Journal of Lipid Research
- 以下の学術雑誌はオープンアクセスとなったため、冊子体の購読を中止しました。
 - ・Journal of the Mass Spectrometry Society of Japan / 質量分析
- 以下の学術雑誌は休刊となりました。
 - ・医薬ジャーナル(2019年3月)
 - ・最新医学(2019年6月)
- 2020年11月に館内利用者用デスクトップPC11台を入れ替えました。
- 将来の移転に備え蔵書の整理、および資料電子化の計画を進めています。

皆さんの声を募集中!「新図書館に期待することは?」

数年後に移転する予定の新図書館について、学生・教職員の皆さんが期待していることをぜひ聞かせてください。
右のQRコードからアクセスし、Webフォームに入力をお願いします。



<https://forms.gle/5QdyjfnusCEQ5cCf9>



神戸薬科大学図書館ニュース No.52

2021年4月1日発行 神戸薬科大学図書館 〒658-8558 兵庫県神戸市東灘区本山北町4-19-1
TEL (078) 441-7512 URL <https://www.kobepharmaceutical-u.ac.jp/library/>

*「神戸薬科大学図書館ニュース」のバックナンバーは図書館ホームページで公開しています。